

週日の説教

金 大烈 神父 2010年1月5日(火)

《キリストの一番大きな奇跡 - 分かち合い - 》

今日の第一朗読(一ヨハネ 4・7 10)は、私たちがよく目にしている、特に信者ならばいつも目にしている『愛』についての話でした。皆様、もし、お子さんやお孫さんが「愛ってなあに。」と聞いたら一言で何と答えますか。分かっているのにもかかわらず一言では言えないのが愛かもしれません。ある歌では、「愛は涙の種」といっているのを聞いたことがあります、確かに「涙の種」かもしれません。

『愛』については、いろいろな歌や話があります。キリスト教的にもいろいろな解釈があります。しかし、今日の第一朗読を読んで私の頭に浮かんだのは、“『愛』というものは、先ず自分から生じなければならないものだ”ということです。しかし、“自分から生じるのに、生じてしまえば100パーセント相手が中心になってしまう”そういう心の働きが『愛』ではないかと思えます。もちろん私たちには、完璧な『愛』は死ぬ時までできないでしょう。“何とかして『愛』の姿を作ろう、『愛』の形を作ろう”と頑張りながら生きるのだと思えます。ただ私たちが忘れてはいけないことは、“間違えた『愛』によって葛藤したり、悩んだりしていないか”ということです。特に男の子と女の子が恋愛に陥った時、「愛している」と言いながらも、相手のことではなく、自分のことばかり考えてしまうのが、人間の世界ではないかと思えます。

とにかく、正しい『愛』というのは、“自分から生じて100パーセント相手に向く”そういう心の働きになります。自分のことばかりに執着すれば、正しい『愛』の形はできません。愛と言おうとすればすべての中心を相手に置くのが正しい『愛』だと思えます。しかし、それは難しいです。本当に難しいです。神様が許さなければ、このような完璧な『愛』はできないのかもしれませんが、しかし、少なくとも完璧な『愛』を求めようとする気持ちがあれば、何とかなるのではないかと考えてみました。

さあ、今日の福音(マルコ 6・34 44)に入ります。これは、とても有名な物語ですよ。奇跡の話です。「5000 人の人に食べさせて、さらに残ったパンと魚で12のかごがいっぱいになった」という話です。

今日は、違う視点から見たいと思えます。「イエス様は人々に憐れみを感じて、教えられた。」と今日の福音に書いてあります。そして夕方になり、様子を見ていた弟子達は心配になります。イエス様のところへ行き、「どうか人々を解散させてください。」と頼みます。そうすれば、“それぞれどこかへ行き、食べ物を探して何とか解決するでしょうから”と。弟子たちは、困ったことが起こる前に何とかしようとしたのです。するとイエス様は、「あなた方が彼らに食べ物を与えなさい。」とおっしゃいました。そのように言われた弟子たちの立場になってみましょう。

私たちには、いろいろな教会の教えがあります。その教えは、「神様の名によって」、とか「教会の名によって」とか、いろいろな言い方で人々に、「これをしなさい。」「これは避けなさい。」と言っています。その時に「これは正しいことだ」とはっきりわかっているのに、「これは自分には無理だ」「こ

れはやりたくない」「もう心が動けない」と思う場合もありますよね。

さあ、皆様、イエス様が本当にとんでもないことを注文します。どうすればよいでしょうか。弟子たちはみんな心配しているのに、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」とおっしゃいました。そのように言われたら、皆様はどうしますか？そういう心をイエス様は分かりました。そして、「今、どのくらい食べ物があるか調べて欲しい。」とおっしゃいます。調べると、『五つのパンと二匹の魚』がありました。パンと言ってもベーカリーで売っているような素晴らしいパンではなくて、乾いて味の無いパンだったのでしょう。魚二匹は、焼く場所があったのでしょうか。焼いた魚ならば、焼いてからどのくらいの時間がたっていて、味はどうなっていたでしょう。「このくらいしかありません。」と言ったら、イエス様は自分たちの望みに応じてくれるのではないかと弟子たちは思ったでしょう。「ご覧なさい。二匹の魚と五つのパンしかありません。」そのように答えたのですね。するとイエス様は、「組を作って三々五々座らせてほしい。」とおっしゃいます。そして、この先はいろいろな神学者達が話していて私も同意する話なのですが、おそらく「“恥ずかしい”と思わずに自分の持っている食べ物を全部出しなさい。」とおっしゃったのではないかと思います。これは2000年前のことなので誰にもはっきり分かりません。でもおそらく、そういうことではないかと思います。「私はこれしかない。」「私もこれしかない。」と言いながら、それぞれの人が出したもので、みんなが満腹になり、さらに残ったという奇跡が起こったのだと思います。

ですから、この福音にはメッセージが二つあります。一つは、「**神様に言われたことだと思ったら、実践しようとする勇気を求めなさい。**」ということです。二つ目は、「**この世の中でイエス・キリストが見せてくださった一番大きな奇跡というのは、『分かち合い』である。**」ということです。分かち合いができれば、要らない心配から解放されます。しかし、私たちが一番苦手なこと、下手なことは、『分かち合うこと』です。本当に分かち合うことは苦手です。しかし、いろいろなことを見ても、悲しみでさえ、分かち合えれば、私たちはそこから解放されます。痛みからでも、分かち合えれば救われます。それなのに、私たちは勇気がなくて、先に手を伸ばすことが少ないです。先に手を伸ばすことを迷っています。勇気を出し手を伸ばしましょう。

“悲しみは分かち合えば分かち合うほど小さくなり、喜びは分かち合えば分かち合うほど大きくなる”という言葉があります。

皆様、今日の福音を通して、「信者として行わなければならないことを、重荷としてではなく、神様を信頼しながら自発的にできれば、私も幸せになれる。」という体験が出来るように願いましょう。

ありがとうございました。